

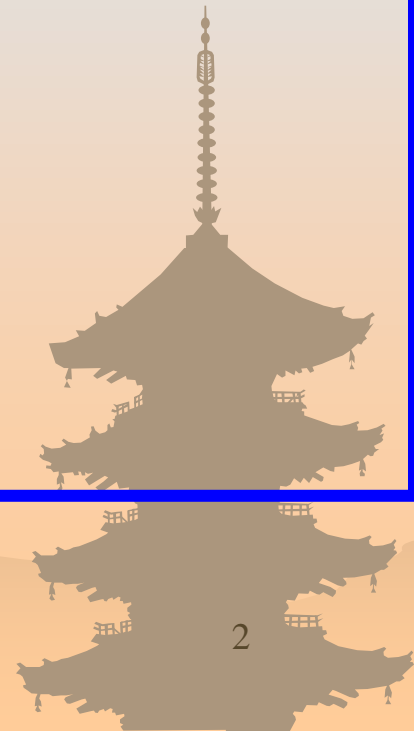
Note to AOTANI

❁ Last updated and revised on **04/15/2012**



おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. 学習フレームワーク
 - 戦力の二重螺旋
 - 訓練の四重螺旋
3. fluencyからFLUENCYへ
4. DEARと拡張DEAR



おしながき

5. Speakingモデル
6. 各種のSpeaking訓練



❁ 自分の学びを作るための 説明

❁ マニュアル人間・指示待ち
人間養成講座に非ず



大人の英語習得は 勉強である



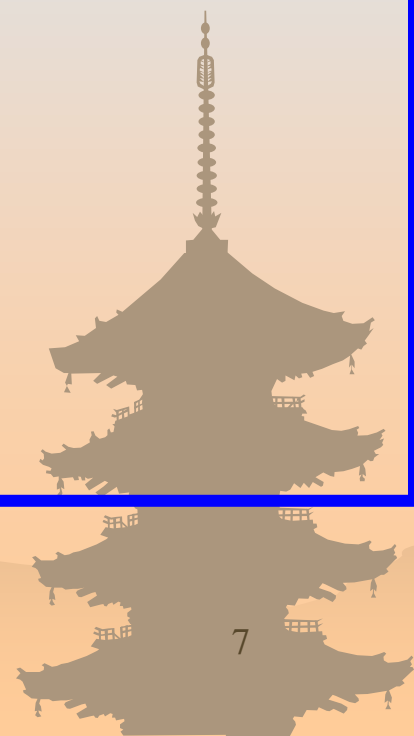
『カク』・『シキ』を重んじる

- ❁ **計画的・多角的・本格的・意識的・形式的・組織的学習**が肝要
 - 形式的＝形式に関する様（広辞苑）
- ❁ 漫然と学んでも駄目！
- ❁ 納得尽くで学ぶ



おしながき

1. **英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋**
2. 学習フレームワーク
 - 戦力の二重螺旋
 - 訓練の四重螺旋
3. fluencyからFLUENCYへ
4. DEARと拡張DEAR



The Double Helix of Knowledge (知識の二重螺旋)

- ❁ Explicit/Declarative Knowledge
(顯在的・**宣言的知識**)
- ❁ Implicit/Procedural Knowledge
(潜在的・**手續きの知識**)



宣言的・顕在的知識

自転車の各部の名前

❁ 口で説明できる

- 単語の辞書的意味
- イディオム
- 文法のルール: **三単現のs**

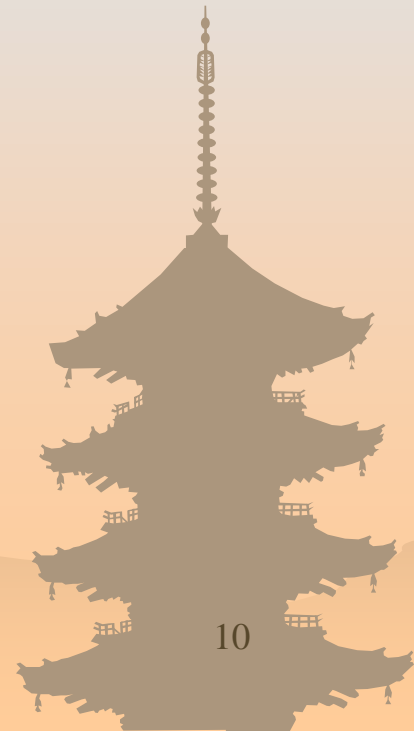


実際に自転車に乗れる

4/17/2012

運用力養成のために

10



手続的・潜在的知識

実際に自転車に乗れる

❁ 出来る(体・頭が覚えている)が
言葉で説明はできない

— 文法のルール正しい適用



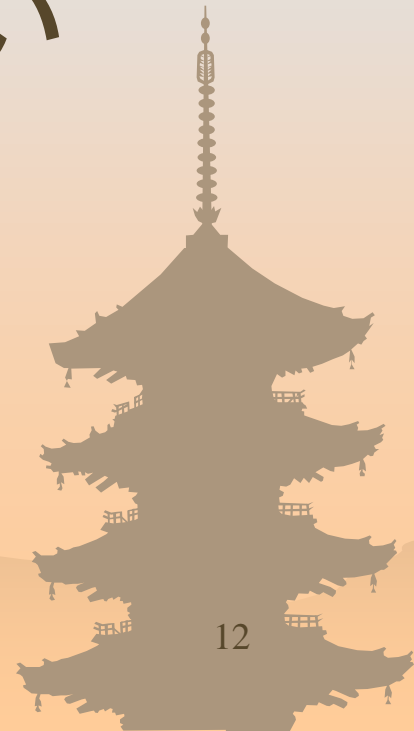
Patient H.M.

❁ Henry Gustav Molaison

(February 26, 1926 – December 2, 2008)

❁ 宣言的知識は身に付かない

❁ 手続き的知識は身に付く



Clive Wearing

- ◆ Clive Wearing (May 11, 1938)という音楽家
- ◆ ヴィルスによる脳へのダメージ
- ◆ 新しい宣言的知識獲得不能、過去に蓄積した宣言的知識も失った
- ◆ ピアノ演奏や指揮は以前のようにできた
- ◆ 蓄積した手続き的知識にはダメージ無し
- ◆ 自分がピアノを練習したという過去の事実の記憶は全く無い



中学・高校では

- ❁ 殆んどが宣言的知識
- ❁ 口で説明出来る事をやる授業の宿命



英語の運用能力

❁ 究極の手続き的知識

- 聴解 (ノーマルスピード)
- 読解 (頭から・非暗号解読的)
- 作文 (和文英訳に非ず)
- 流暢な会話



最大の問題

- ❁ 手続き的知識(=技能)が弱いと
- ❁ 宣言的知識に頼り
- ❁ 処理速度も「英語らしさ」も低下
- ❁ 流暢ではない
- ❁ Automaticityが無い(自動化されていない)



目標

- ❁ 手続き的知識（完成された技能）を身に付け、
- ❁ 英語らしい処理を、
- ❁ 自動的に行う



❁ 手続き的知識の獲得

❁ 流暢さの獲得

❁ 自動性の獲得



言語の内在化

- ◆ **宣言的知識**は言語に特化してはいない**脳の一般機能**にも頼る
- ◆ 『**内在化**』とは、宣言的知識の支配をはなれ、手続き的知識として言語システム**内部**に存**在**する様になること：**自動性の保証**
- ◆ **言語システム**は他の機能から隔離され、堅牢さ故に、非言語的要因の**影響を受けない**
- ◆ **非言語的活動との並列処理**が可能

勉強法の体系化

4/17/2012

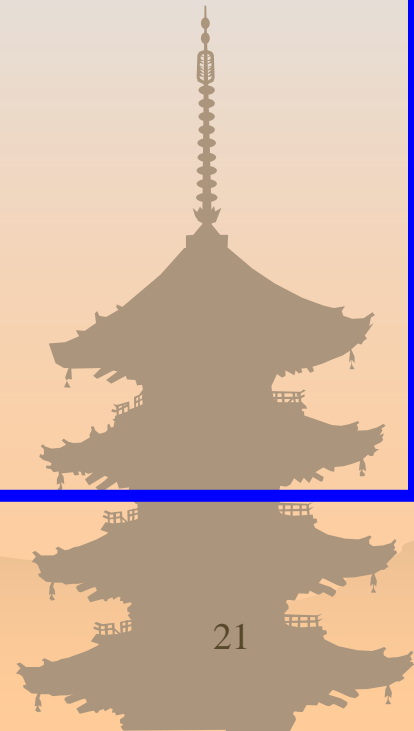
運用力養成のために

20



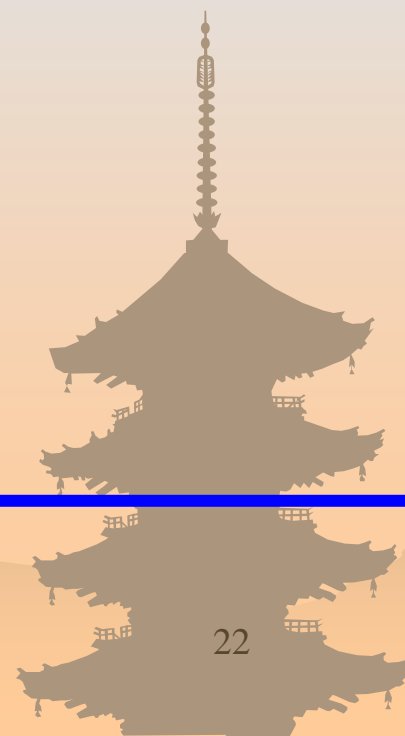
おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. **学習フレームワーク**
 - 戦力の二重螺旋
 - 訓練の四重螺旋
3. fluencyからFLUENCYへ
4. DEARと拡張DEAR



おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. **学習フレームワーク**
 - **戦力の二重螺旋**
 - 訓練の四重螺旋
3. fluencyからFLUENCYへ
4. DEARと拡張DEAR



二重螺旋

- ❁ 宣言的知識と手続き的知識（知識の二重螺旋）
- ❁ **戦力の強化・充実と現有戦力の最大活用**（戦力の二重螺旋）



戦力の強化・充実

主に

宣言的知識の獲得



戦力強化

- ❁ **語彙**・表現・構文・文法の知識の増大
- ❁ 普通の英語を理解するには、実は**7000語から10,000語の語彙**が必要
- ❁ 京大生はせいぜい4000語程度
- ❁ 青谷正妥(あおたにまさやす)も20,000語とか25,000語とか言われている。
- ❁ Nativeの英語の先生は75,000語



戦力強化

- ❁ 語彙・**表現**・構文・文法の知識の増大
- ❁ イディオム・英熟語集も有用だが、
- ❁ 日本語には無い動詞・形容詞の使用等に特に留意
- ❁ The car is enjoying (an) unprecedented popularity.
- ❁ Will Clark was instrumental in the victory.
- ❁ It crossed my mind.
- ❁ Let's start with a clean slate.



戦力強化

- ❁ 基本は受験勉強で使った物
- ❁ しかし、四技能での戦力として



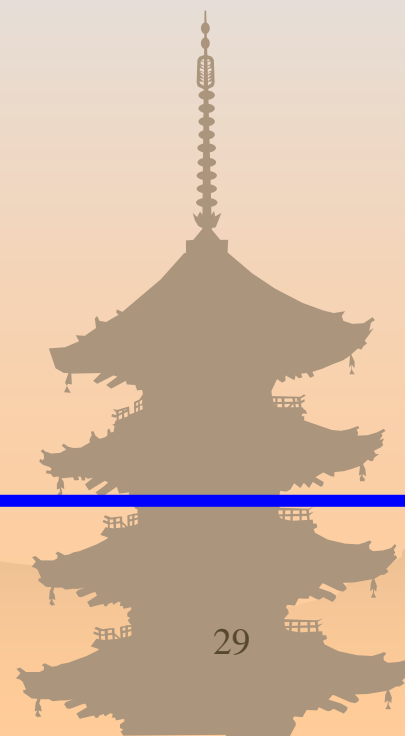
現有戦力の最大活用

- ❁ 使い込みの部分
- ❁ **手続き的知識**への移行
- ❁ スラスラ・ドンドン
- ❁ アウトプットに関しては、
- ❁ アイデア→概訳 (Writing) →略訳 (Speaking)



おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. **学習フレームワーク**
 - 戦力の二重螺旋
 - **訓練の四重螺旋**
3. fluencyからFLUENCYへ
4. DEARと拡張DEAR



英語教育・学習の

四つの螺旋

① 知識・戦力の二重螺旋

② 戦略の三重螺旋

③ 訓練の四重螺旋



四つの螺旋

- ④ 知識・戦力の二重螺旋
- ④ 戦略の三重螺旋
- ④ **訓練の四重螺旋**



プロセス→プロダクトの自動化

英語的プロセスにより、
英語らしいプロダクト
を自動的に生み出す



訓練の四重螺旋

❁ Paul Nation先生の

– **The Four Strands** (四重螺旋)

❁ 青谷の便乗版

– The Four Strands Plus One

– Plus One = Integrative/Interactive
Language Use



四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ 意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)
- ❁ 言語形式の学習 (Language-Focused Learning)
- ❁ 流暢さの養成 (Fluency Development)

四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ 意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)
- ❁ 言語形式の学習 (Language-Focused Learning)
- ❁ 流暢さの養成 (Fluency Development)

意味重視のインプット (Meaningful Input)

- ❁ 意味がほぼ分かるレベルの英語の
- ❁ 聴解や読解訓練で
- ❁ “英語的”なインプット処理技術を学び(高め)
- ❁ インプット処理のための手続き的知識を身に付ける(強化する)
- ❁ 理解力・語彙力・表現力の向上にも繋がる

意味重視のインプット

- ❁ **95%から98%単語が分かるtextの多聴と多読**
- ❁ ノーマルスピードでなくてよい
- ❁ **Graded Readers** (段階的読本) でよい
- ❁ **英語を読む・聞く(英語のインプットを処理する)とは
どういう事かを学ぶ(インプット処理力を維持する)**
- ❁ 既出の語彙・表現等に慣れる
- ❁ 新しい語彙・表現を獲得する
- ❁ **処理できない難しいインプットは処理練習にならない**

四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ **意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)**
- ❁ 言語形式の学習 (Language-Focused Learning)
- ❁ 流暢さの養成 (Fluency Development)

意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)

- ❁ 和文英訳ではなく、**課題作文・発話**で
- ❁ “英語的”なアウトプット技術を学び(高め)
- ❁ **アウトプットのための手続きの知識**を得る(強化する)
- ❁ **知っている英語の活用**
 - 近似＝意訳・略訳・ズレ訳
- ❁ **弱点の前景化**



意味重視のアウトプット

- ❁ **課題作文** (例: TOEFLのWriting Topics)
- ❁ **Pair Work**: 日本人同士でも出来る
- ❁ Task Based Approach (課題を使った勉強): 目的達成の為に英語を使う
- ❁ **独言**
- ❁ 時々チェックを入れ、**間違いの化石化や拡大再生産を避ける**



Paul Nation

- ❁ 1,000単語知っているだけで、内容のある発話が十分に可能である。(Nation, 2009, p. 112)
 - Nation, P. (2009a). Teaching ESL/EFL listening and speaking. Cambridge: Routledge, Taylor & Francis.



四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ 意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)
- ❁ **言語形式の学習 (Language-Focused Learning)**
- ❁ 流暢さの養成 (Fluency Development)

言語形式の学習

(Language-Focused Learning)

- ❁ **語彙・慣用表現**・文法・発音など言葉の形式の学習を意識的に行い
- ❁ ネイティブの赤ん坊が成長過程で自然に吸収する言語の形式を宣言的知識として身に付ける
- ❁ 知識として学び、技能として使える様になる(習得→習熟へのステップゼロ)

四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ 意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)
- ❁ 言語形式の学習 (Language-Focused Learning)
- ❁ **流暢さの養成 (Fluency Development)**



流暢さの養成 (Fluency Development)

- ❁ すでに知識としては身につけているものを、**すらすらと使える**様にする
- ❁ 平たく言うと使い込む事による**スラスラ感**の養成



流暢さ養成の四要素

- ❁ 確実に広範な宣言的知識 (chunksも学ぶ)
- ❁ 量をこなす (Time-on-Task)
- ❁ 反復 (Repetition)
- ❁ 時間制限 (Time Pressure: Upper/Lower Limits)
- ❁ **多く・何度も・速く (お・は・な)**



ゴールはYTKKE

Automaticity

(自動性)



YTKKE?

❁ Yaめられない

❁ Toまらない

❁ Kaっぱ

❁ Eびせん

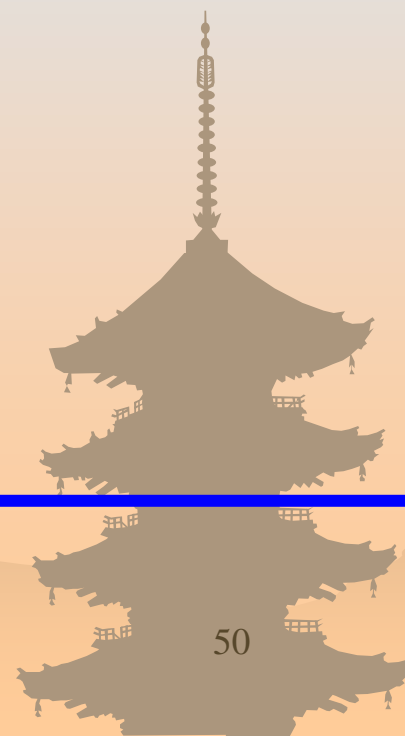


四重螺旋 (The Four Strands)

- ❁ 意味重視のインプット (Meaningful Input)
- ❁ 意味重視のアウトプット (Meaning-Focused Output)
- ❁ 言語形式の学習 (Language-Focused Learning)
- ❁ 流暢さの養成 (Fluency Development)

おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. 学習フレームワーク
 - 戦力の二重螺旋
 - 訓練の四重螺旋
3. **fluency**から**FLUENCY**へ
4. DEARと拡張DEAR：



fluencyとFLUENCY

- ❁ fluency: 現有戦力の最大活用(流暢さ)
- ❁ FLUENCY: 十分な現有戦力(語彙・表現・構文等の宣言的知識)に裏打ちされたfluency
- ❁ 十分な現有戦力とは、「教養あるネイティブスピーカーと対等に話す」のに十分な宣言的知識
- ❁ ネイティブ並・ネイティブレベルでは勿論ない
- ❁ 語彙なら最低1万語

つまり

- ❁ fluencyの進化版がFLUENCY
- ❁ FLUENCYはProficiencyとsynonymous (類語・同義語)
- ❁ fluencyの完成形がFLUENCY
- ❁ 発展途上がfluencyで行き着くところがFLUENCY
- ❁ fluencyは使いこなせる宣言的知識の量が未だ不十分

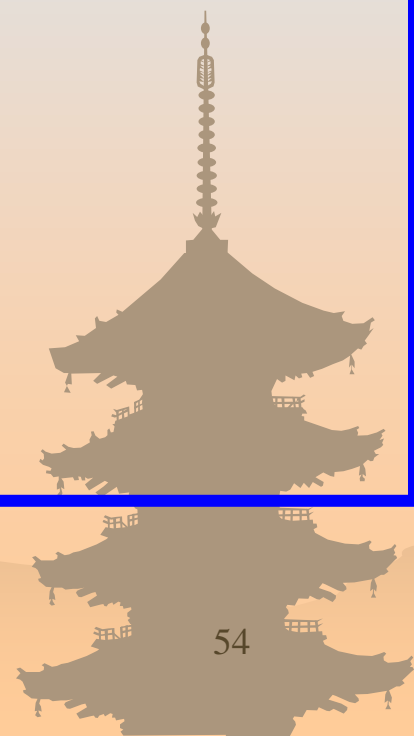


宣言的知識とfluencyのバランス

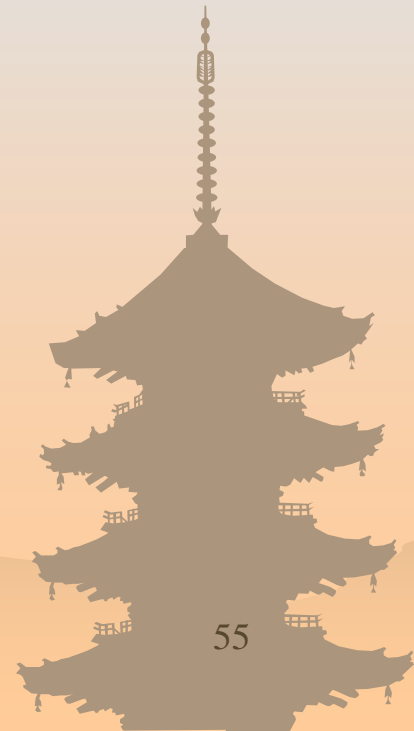
- ❁ fluencyを確保しながらproficiencyを伸ばす。
- ❁ Recall: 四技能を同時に伸ばすことによる効率的・効果的学習
- ❁ Recall: Output訓練、特にSpeaking訓練が無ければ、運用力養成訓練が成立しない。
- ❁ 宣言的知識とfluencyは梯子の二つの支柱のようなもの

おしながき

1. 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
2. 学習フレームワーク
 - 戦力の二重螺旋
 - 訓練の四重螺旋
3. fluencyからFLUENCYへ
4. **DEARと拡張DEAR**



意識的学習の一部



DEAR 1

- ❁ Database of Errors and Ambiguous Representations
- ❁ 自分がよく犯す間違い (Errors) やどれが正しいのか確信が持てない事柄 (Ambiguous Representations) の脳内データベース
- ❁ それが誤りだと分かっているのに犯してしまう誤りであって、宣言的知識の問題ではなくパフォーマンス (手続き的知識) の問題

DEAR 2

- ❁ Foregrounding (前景化)が進んでいて、それが間違いだという記憶のmemory traceが強いので、自分がその間違いを再び犯した時のCorrective Feedback (修正フィードバック)の効果も大きい。
- ❁ そういう誤りを犯さなくなるとDEARから削除

DEAR 3

- ❁ Ambiguous Representationsは正しいのかどうかあいまいだと明確に認識されながら脳内に格納されている知識(宣言的知識)
- ❁ その知識があいまいだとしっかりと認識していれば、誤った知識がfossilize(化石化)してしまうこともない
- ❁ Inputから知識を習得した時、自分で調べた時にDEARから外れる

DEAR

- ◆ **D**atabase of **E**rrors and **A**mbiguous **R**epresentations
- ◆ Errors : 普段から意識しておくべき自分が犯し易い間違い
- ◆ Ambiguous Representations : 確信が持てない単語・表現・文法事項・構文・発音等
- ◆ DEARのサイズの縮小 >> **英語力向上**
- ◆ DEARのサイズの拡大 >> **Fossilization防止**

拡張DEAR (Extended DEAR)

- ❁ ふだんから英語ではうまく表現できないことを、
、どういう状況で何を言いたいのかという環境
情報も含めて強く意識しておく。
- ❁ データベースのこの部分はWELL (Words and
Expressions to be Learned Later) と呼ばれる。
- ❁ Foregroundingとmemory traceの強化により、
自分で調べたりReading/Listeningの中で出会
ったりして正しい形を知った時に、より深い学
び (deep processing) が可能

おしながき

5. **Speakingモデル**

6. 各種のSpeaking訓練



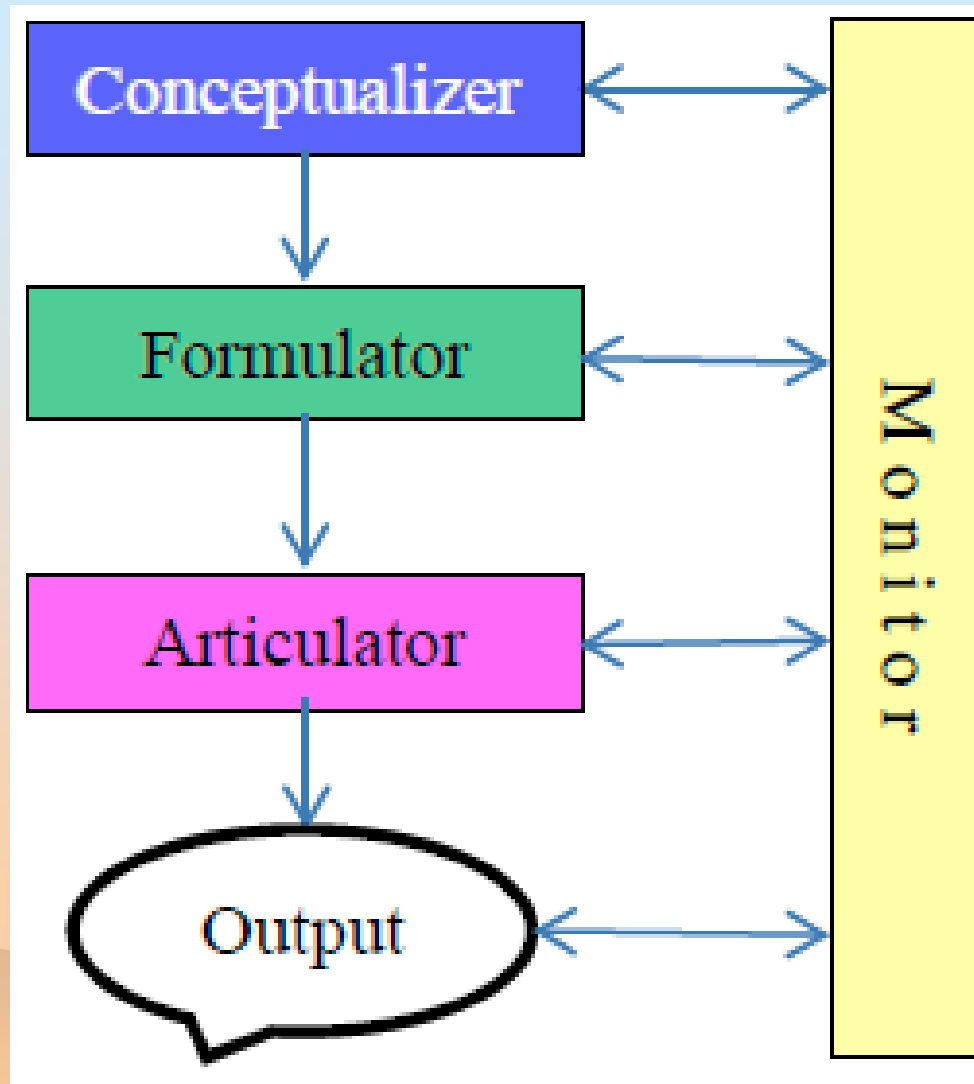
Modelについて

統計学者George E. P. Boxの有名な言葉に

“Essentially, all models are wrong, but some are useful.”（基本的にはモデルは全部偽りだが、それでも役に立つ物もある。）



Leveltのモデル

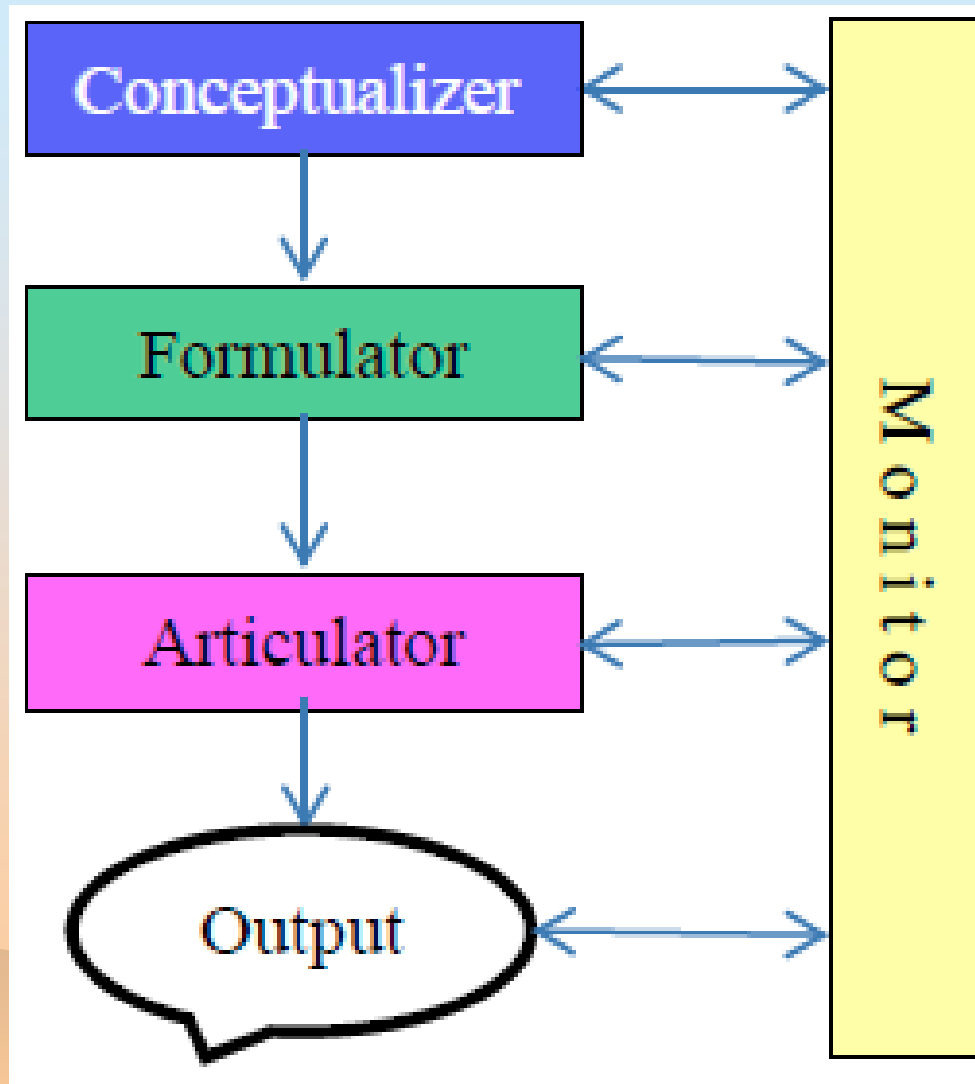


Conceptualization (概念構築)

- ❁ Conceptualizationは話者の概念・アイデア・意図を構築する * 言語以前 * の段階



Leveltのモデル

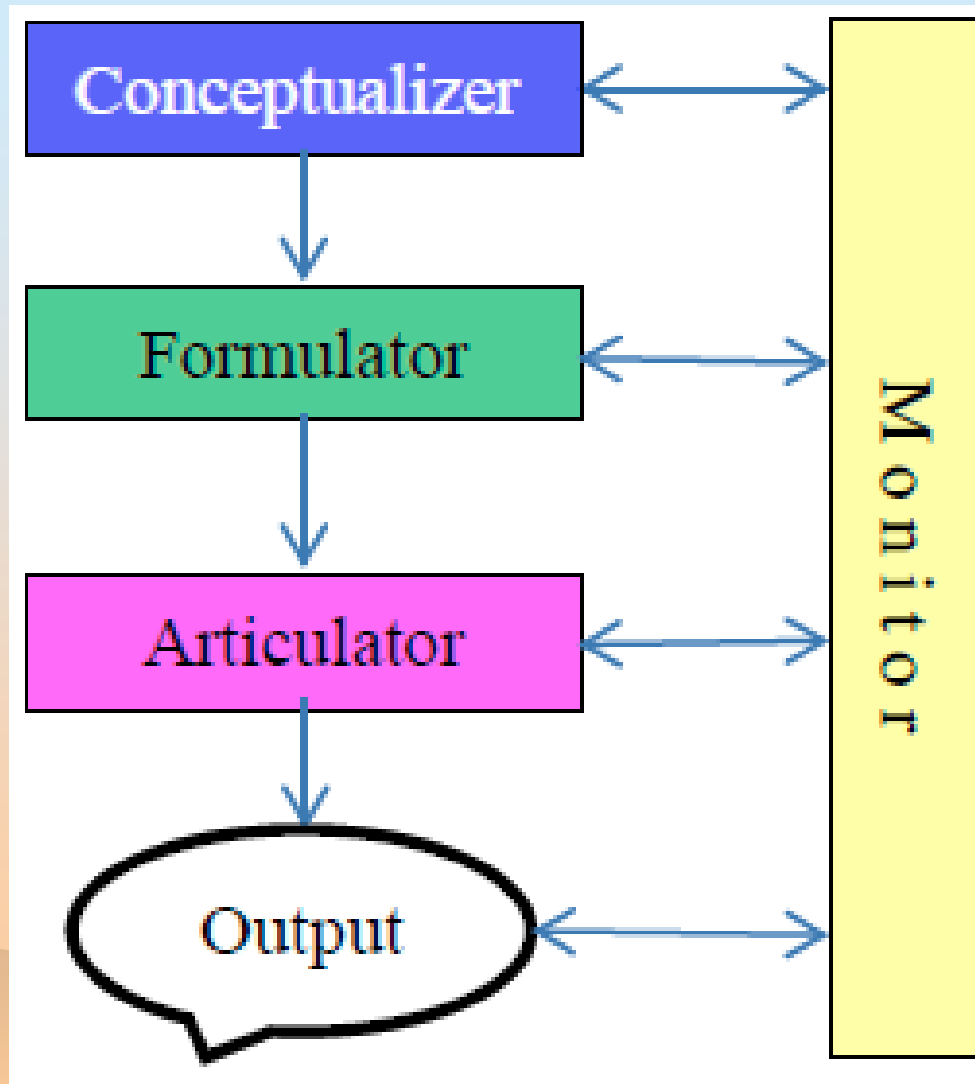


Formulation (言語化)

- ❁ 意図を言語で表せる形にするため、単語を選択して発音を含む諸情報を取得し、活用形を検討し、語順・文法・構文の処理を行い、脳内にcovert speech (内的発話)を形成すること



Leveltのモデル

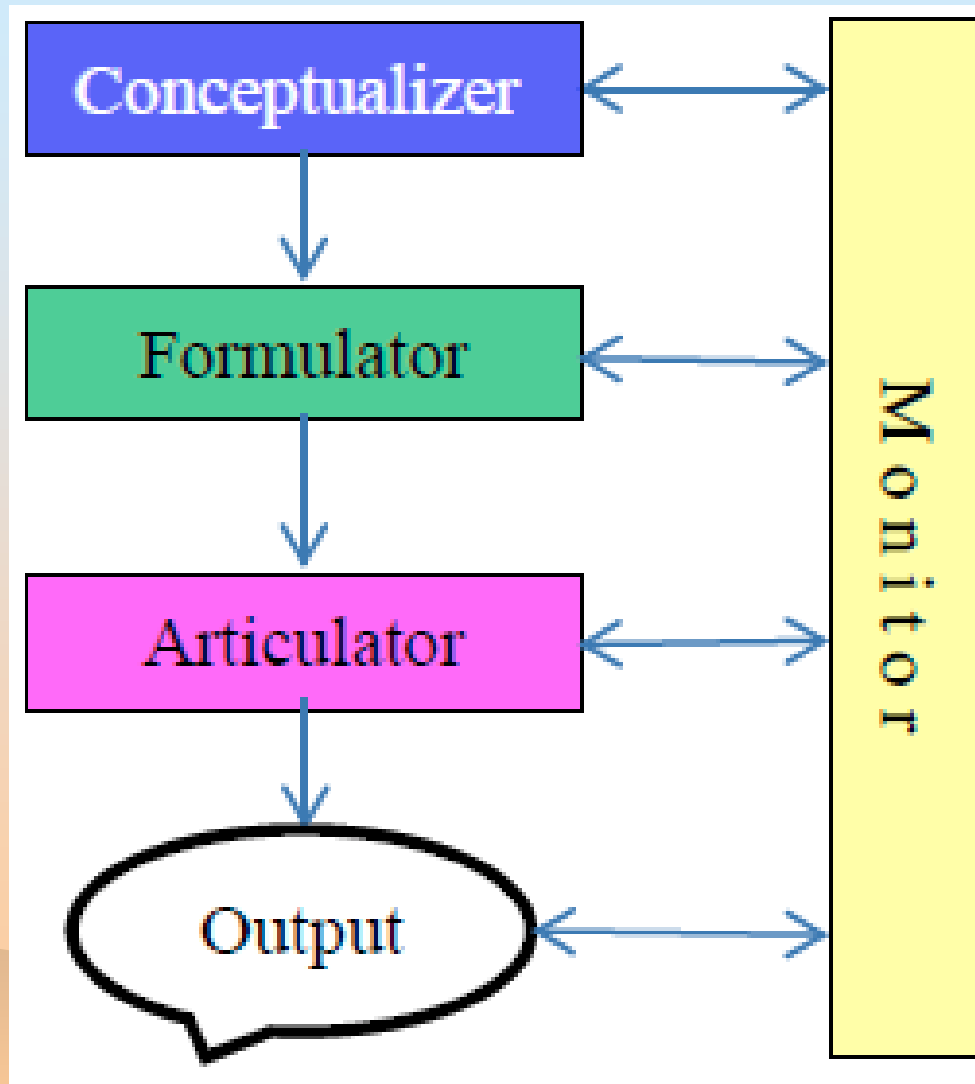


Articulation (調音)

- ❁ 神経系統を正しく使って筋肉に指令を出し、overt speech (外的発話＝普通の発話)を達成する最終過程



Leveltのモデル

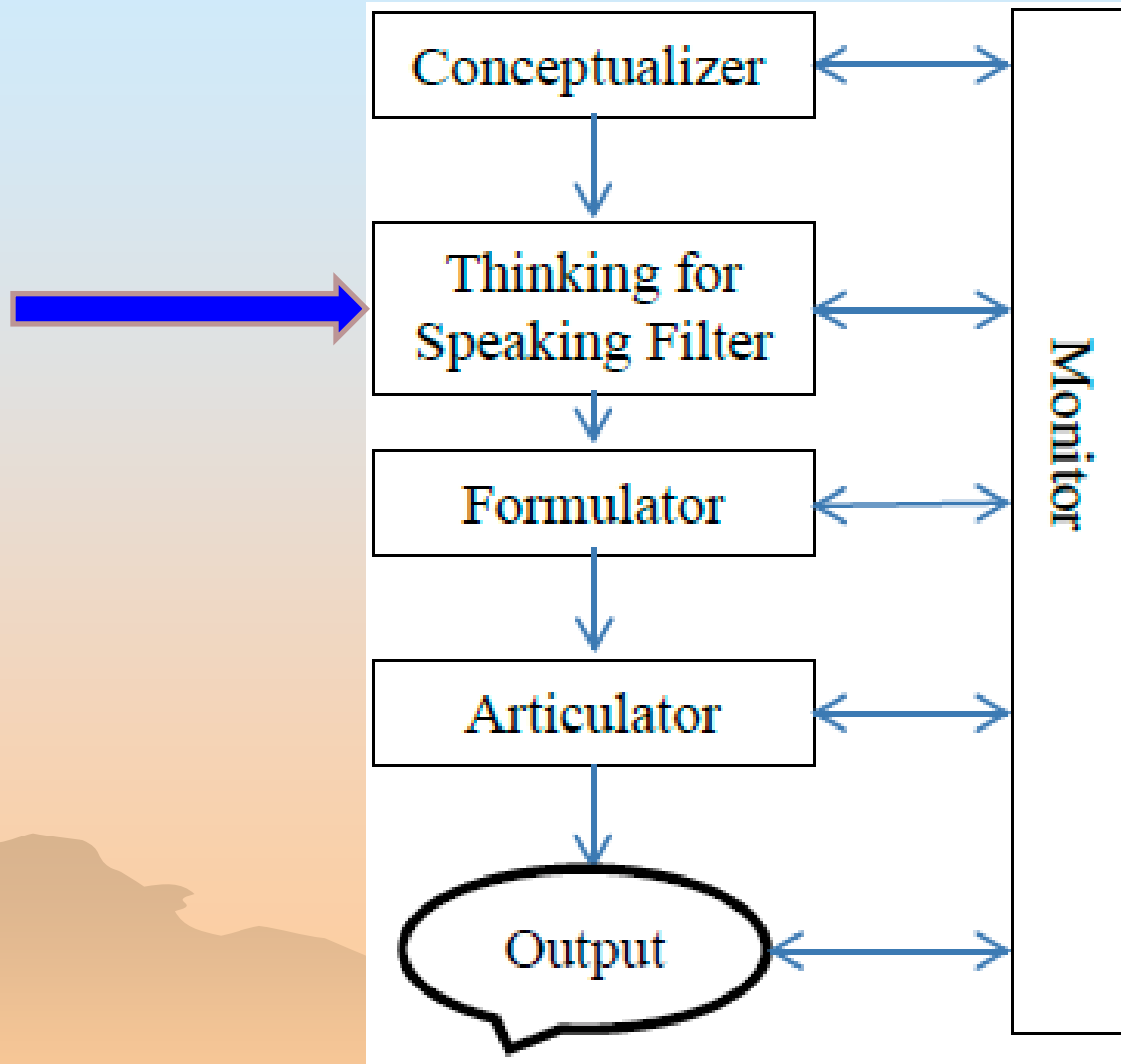


Monitoring (監視)

- ❁ 上記三過程の産物が正確で適切かどうか監視する機能で、問題があれば、発話前なら再処理、発話後なら話者の判断で言い直し
- ❁ なお、overt speech (外的発話) の monitoring には聴解回路がそのまま使われるというのが Levelt の考え



青谷の拡張Leveltモデル



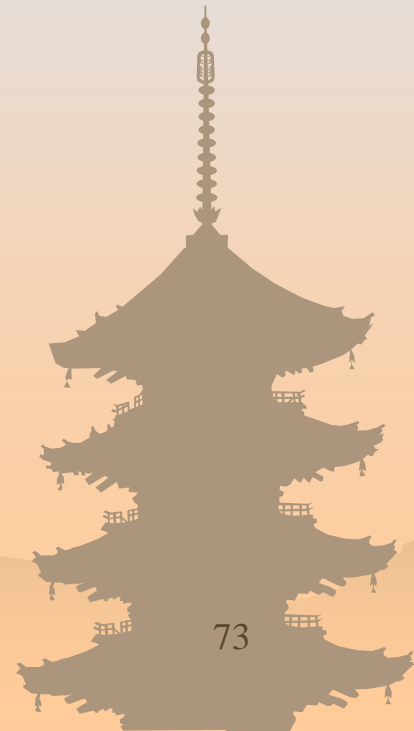
Thinking for **S**peaking Filter

- ❁ 言語よりもはるかに広範で多元的な思考から、「これ(**ThiS**)は言語化OK」「この範囲まで(to **ThiS** extent)は言語の表現能力内」と Formulatorで言語化可能なものを取捨選択するためのフィルター機能



英語で考える？

- ◆ Formulationを英語で行う事
- ◆ Formulationは第2段階なので、屁理屈を言うなら、「最初から英語で考える」ことは絶対にできない



思考と言語

- ❁ 豊かな思考と貧しい言語
- ❁ 速い思考と遅い言語

言語モード	毎分単語数
話す	125～200
読む	250～300
考える	400～無限
書く	30



思考・概念

言語化(日本語化・英語化)

発話



思考・概念

日本語化

発話



思考・概念

英語化

発話



思考・概念

日本語化

英語化

発話



思考・概念

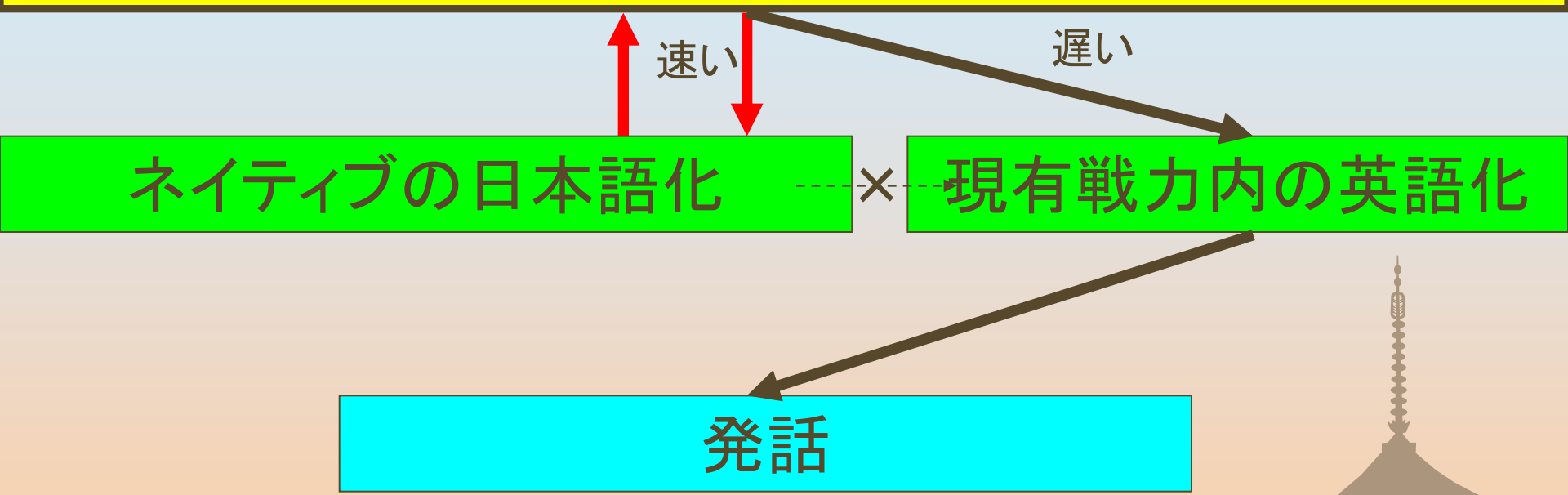
日本語化

英語化

発話



思考・概念



思考・概念

日本語化

英語化

発話

この図式では不十分



思考・概念

日本語化

英語化

発話



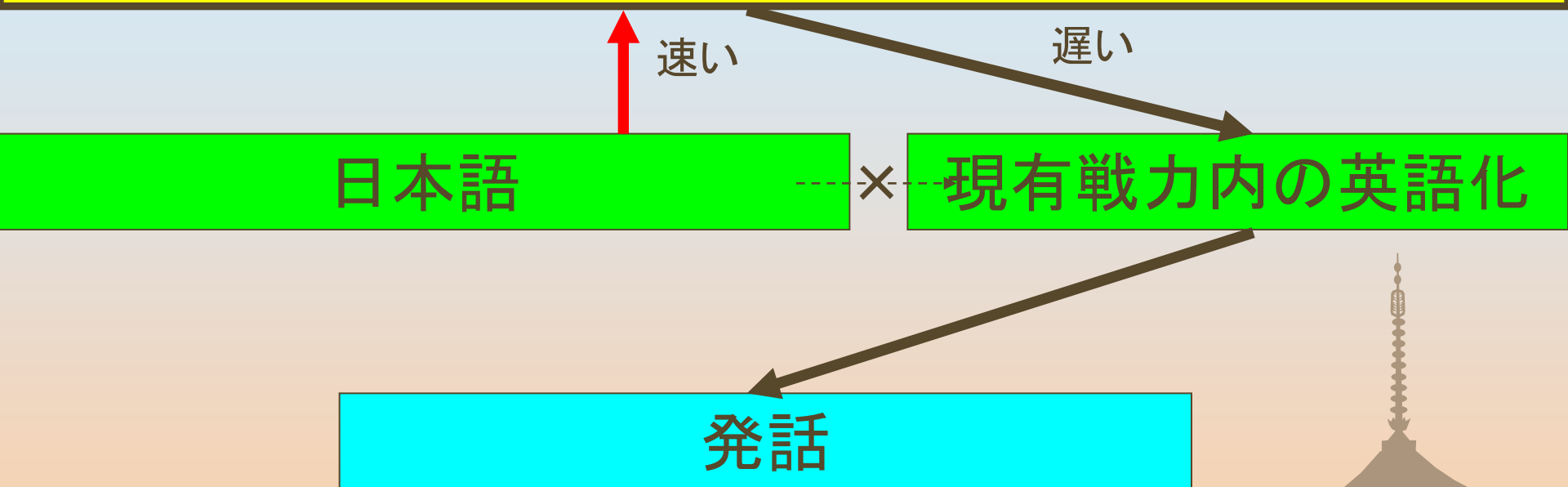
思考・概念

英語化

発話



思考・概念



英語運用力の養成とは

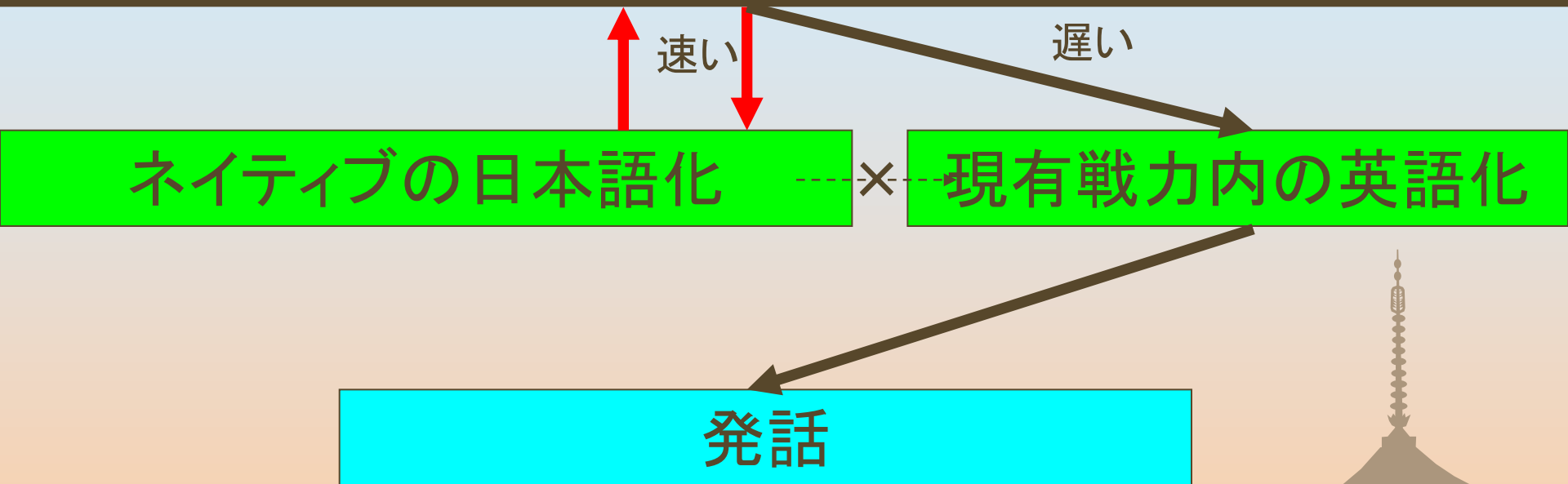
Formulatorの訓練



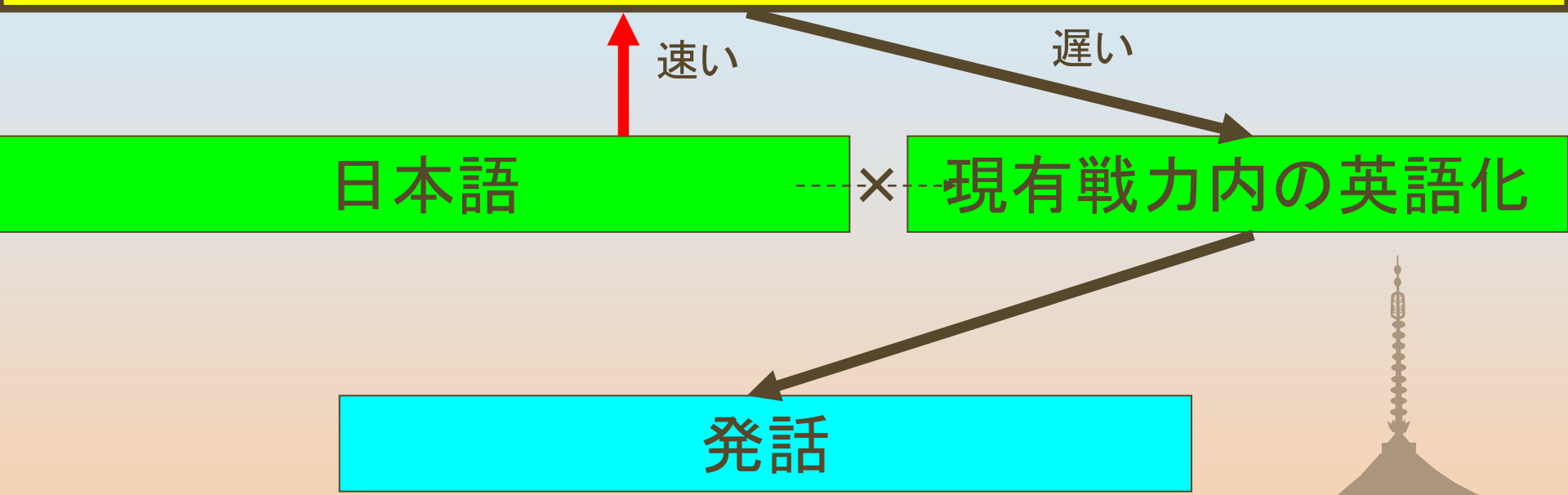
- ❁ 「最初から英語で考える」
- ❁ のではなく、
- ❁ 「脳内の日本語を和文英訳する」
- ❁ のでもなく、
- ❁ 「脳内の日本語の**内容を英語で表す**」
- ❁ **上流にある概念・思考・意図の意識・略訳・概訳・ズレ訳**
- ❁ **逐語訳ではない**



思考・概念



思考・概念



Transfer Appropriate Processing

転移適切性処理

- ◆ 記憶の質は**retrieval(取出し)との関連**で評価
- ◆ 記憶される**事物・概念**とともに、それに**遭遇した・学んだ時の状況**も同時に**記録**
- ◆ 獲得・格納時の環境・状況と、**取出し時の環境・状況とのマッチング**が記憶の運用に関係
- ◆ **獲得モードと取り出しモード**の間の**整合性**

おしながき

5. Speakingモデル

6. 各種のSpeaking訓練



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



Speaking訓練

1. **15/45 Exercise** (TOEFL-type)
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



15/45 Exercise

1. お題を見て15秒考え45秒しゃべる
2. 短期記憶に留まるのがせいぜい数十秒
3. ネイティブスピーカーでも10秒くらいは準備が必要
4. Pausesを避ける
5. DEARの活用:意識するが言い直さない
6. 話すにつれ少しずつトークをorganizeする

15/45 Exercise

- ◆ 起承転結
- ◆ 起承結:「承」で具体例も
- ◆ 等々 structure を考えてよいが、
- ◆ 基本は流暢さ=どンドンしゃべろうとする
- ◆ Anchoring (結) は大切: 弱いanchoringでも良い、要約や転+結でも良い



15 Seconds

Conceptualizer (NOT Formulator)

主に**Conceptualizer**を働かせて内容を考える時間であって、**Formulator**で作文を試みる時間ではない。



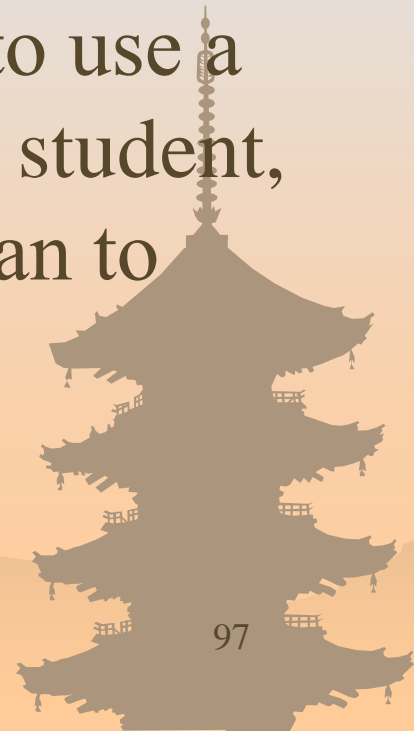
具体例：お題

Think of an invention that changed the way you live. Explain how and why it did so? Please include specific details in your explanation. (あなたの生活を変えた発明を一つ考え、どのようにまた何故それが生活を変えたのか具体的詳細を含めて説明してください。)



具体例：青谷↑

I think I should pick a computer. Ah, computers were not available, like, you know, for the general public, to the general public, when I was a kid. And ah, the only option was, like, to write things by hand or, if it's a computation, to use a calculator. But, ah, when I was a college student, computers ... that's when computers began to become available, widely available.



具体例：青谷↑

And, that accelerated, ah, both computational work as well as, like, document processing of various kinds.

And ah, I benefited greatly from a computer programs called LaTeX when I wrote my dissertation.

And ah, right now I work through my keyboard. Most of my work is done through my keyboard.

Crib Notes

com(puter), cal(culator), coll(ege), LaTeX



数をこなす

- ◆ 1題: 15秒 + 45秒 = 1分
- ◆ 一万題でも一万分 = 166時間40分
- ◆ 一日3時間やれば2か月以内(55.6日)で終わる

http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Speaking.doc



Scaffolding

- (1) 準備時間を30秒から90秒: より充実したメモ
- (2) 最初に2,3分間話し、内容を変えず段階的に短くする(たとえば、3分>2分>1分>45秒の順で)
- (3) 日本語(母語)で45秒 > 英語で45秒
- (4) 長いメモ取り > 日本語で45秒 > 英語で45秒

**まず話の内容(Conceptualizer)を確立し、
Formulator の仕事である単語・表現・構文選
びを事前リハーサルで助ける**

Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. **Free Translation**
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



Free Translation

- ◆ 日本語6文で表された内容を60秒から90秒の英語で言う (Free Oral Translation=口頭意訳)
- ◆ 「書かれている日本語を見て、言葉そのものを英語におきかえるのではなく、**その日本語の*意味*を現有戦力の英語で言う**」
- ◆ 意訳・略訳・概訳・ズレ訳を恐れない
- ◆ Conceptualizationの部分の負担を軽減
- ◆ Formulatorの集中訓練



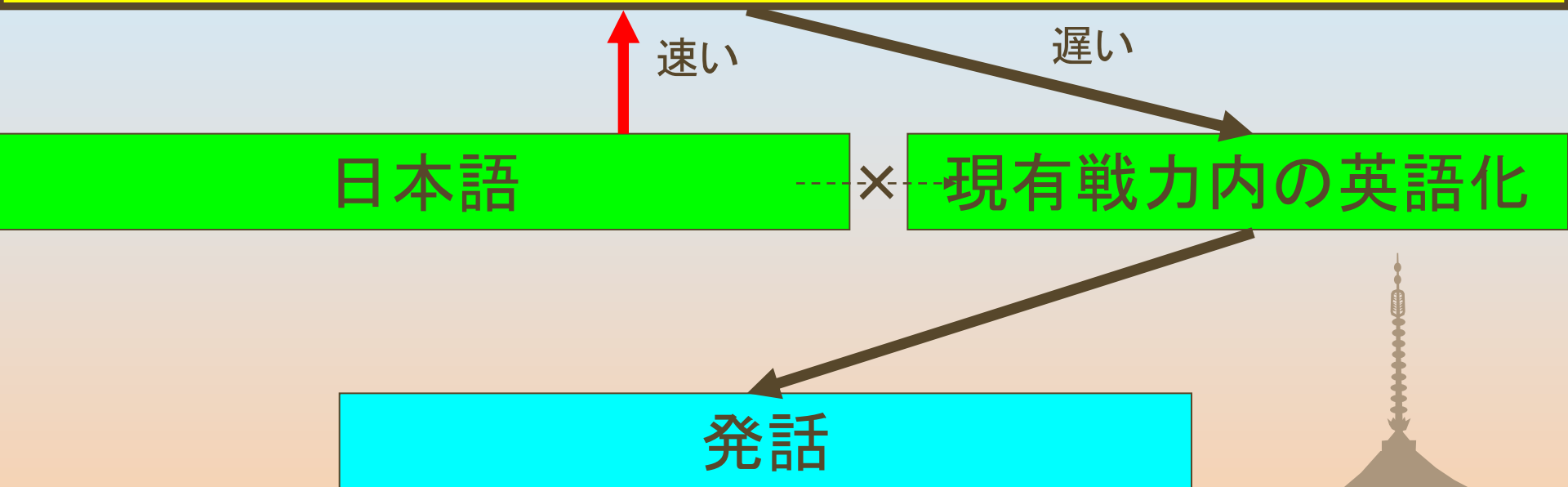
Free Translation

日本語 → (日本語の表す)概念 →→ 概念の
英語にできる形・部分 →→→ 英語

- ◆ 概念はConceptualizerが産出する物と同じで
言語から独立したオブジェクト
- ◆ →→はThinking-for-Speaking Filter、
- ◆ →→→はFormulatorの仕事



思考・概念



Free Translation

【事実羅列型】

朝目を覚ますと7時半だった。

普段より30分遅い。

駅へ走って行った。

電車に飛び乗った。

授業が始まる2分前に教室に滑り込んだ。

汗だくは俺だけだ。



Free Translation

【意見・思考型】

警官が飲酒運転でつかまった。

- 当然だが、精神の病ででもないかぎり、故意である。
- そういう人間にどんな罰が適切か、よく議論になる。
- 警察官なので、より重い罪だとの意見。
- 警察官であろうとなかろうと、故意なのでより思い罰則が必要との意見。
- 一般人が裁判に参加すると、罪の重さに対する認識も罰則も変わるだろうか。

Free Translation

A police officer was arrested **for drinking for** for drunk driving. Ah... Needless to say, unless that person was mentally ill, **it was intentional.** **He did it on purpose knowing...** He did it knowingly. Ah... what kind of a punishment is appropriate for a person like that ah is discussed very often, and ah... Some people think, you know, for police officers **the punishment, it** it is a heavier crime.



Free Translation

If lay people, ah, join the judgment process, the process of judgment, would the punishment change? (言い直し) If lay people are also included in the trial, would the judgment regarding the seriousness of the crime and the appropriate punishment be different?



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. **Picture Task**
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



Picture Task

- ◆ Inputがvisual
- ◆ 日常生活ではreal-timeで見ている目の前の物・出来事について話したり、頭の中にあるconceptはむしろ絵・イメージであったりするの
も当たり前
- ◆ Conceptualizerをサポート
- ◆ <http://www.eslflashcards.com/> は一例



Time Limit
Bounded Above
||
Conceptualizerと
Formulator
の高速化
Bounded Below
||
言語的スタミナ



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
- 4. Oral Composition**
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



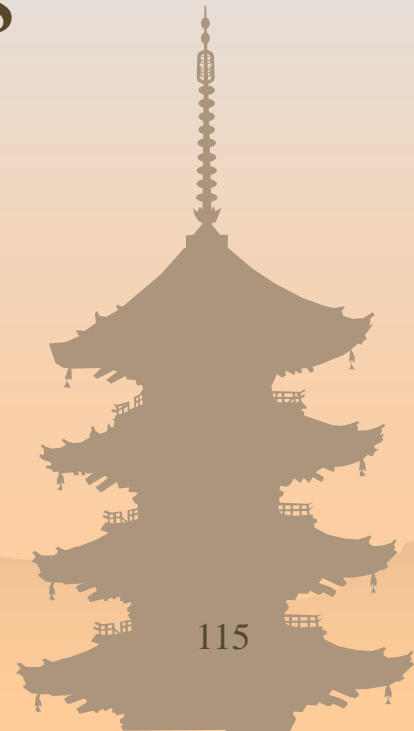
Oral Composition

- ◆ ロングトーク(2から3分): 言語的スタミナ(しっかりと準備してよい)
- ◆ ミニトーク(45から60秒): 瞬発力(準備15秒)
- ◆ 与えられたお題について口頭作文
- ◆ TOEFL Writing Topics
- ◆ GRE Analytic Writing
- ◆ Conceptualizerのサポートも無い



Oral Composition: TOEFL

Describe one good reason to attend college and explain why it is a good reason. Be as specific as possible. You can limit your discussion to your field of specialization if you wish.



Oral Composition: GRE

以下に関する自己の見解を述べよ。

"Some educational systems emphasize the development of students' capacity for reasoning and logical thinking, but students would benefit more from an education that also taught them to explore their own emotions."

http://www.ets.org/gre/revised_general/prepare/analytical_writing/issue/pool



Oral Composition

- (1) **長い沈黙を避ける。** (fluency/FLUENCY)
- (2) 間違いに気づく努力をし、発音・冠詞・前置詞など、簡単な物であればその場で言い直す。(Monitor、DEAR)
- (3) 複雑な間違いや直せぬ間違いなら、間違いであるという事実を心に留める。(Monitor装置、弱点の前景化=DEAR)
- (4) 知識があやふやなら、そう意識しながら思いついた文型や表現を使う。(Monitor、DEAR、Fossilization防止)
- (5) 終わりの方ではだんだんと流れがよくなり、**最後は punchline**でまとめられるよう努力をする。



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. **Summary Task**
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



Summary Tasks

- ◆ インプット処理 (Listening/Reading) とSpeaking を合わせたintegrative (統合的) な練習
- ◆ ネイティブの英語力
 - **凝縮力** (要点を述べる力)
 - **拡張力** (要点からfull storyを作る力)
 - **創作力** (新規な表現を作る力)
- ◆ 拡張力は15/45に入っていた。



Summary Tasks

- ◆ 最低1分聞いて、45秒で口頭要約する。(1分以上ならメモ取り・線引き可)
- ◆ ところで、創作力の例(日本語)

さびしさは鳴る。耳が痛くなるほど高く澄んだ鈴の音で鳴り響いて、胸を締めつけるから、せめて周りには聞こえないように、私はプリントを指で千切る。「蹴りたい背中」冒頭

Summary Tasks

長い話が何についてであったかというような理解は、言語としてよりはむしろ概念 (concept) として頭脳に格納されています。よって Summary Task は Conceptualizer を含む Speaking のすべてのツールを動員します。



たかみなとカツ丼を食べた

- ◆ 留学生や年寄りの理解:「たかみな」という食べ物とカツ丼という食べ物を食べた
- ◆ 青谷の理解は豊富な予備知識に基づく:たかみなの好物がカツカレーやカツ丼で、勝つという意味での縁起をかついでコンサート前に食べることもあり、所属事務所のプロダクション尾木がそんなことを許した理由はともかく、某番組では、ほとんどの人がたかみなの知らない村に連れて行かれて、村人にカツ丼を作って食べさせてくれるように懇願するという芸人並みの企画をこなしたこともあり、同じ事務所の峯岸みなみもたかみなのカツ丼好きに言及しており、誕生日が4月8日という理由だけでAKB48のキャプテンを務めているとのうわさが絶えない等々、情報の洪水と言っていっくらい背景知識が豊富

たかみなとカツ丼を食べた 2

- ◆ところで、これでも青谷正妥(あおたにまさやす)はAKBファンでもたかみな推しでもありません。毎日そういう若者に囲まれているだけで、これだけの情報収集が、いともた易くできるのです。本当です！



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
- 6. Pair Work**
7. Write to Speak
8. Recording



Pair Work

- ❁ Pair Discussion (聞き手を投入)
- ❁ One-Way Presentation Task (聞き手、Monitor)
- ❁ どうしても独り言的な練習では、説明が雑になったり、内容が不足したりしがち
- ❁ 自分では言いたいことが十分分かっているため、仕方がない
- ❁ 聞き手は**外部Monitor**となる (here-and-now feedback)、もちろん楽しさもある

Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. **Write to Speak**
8. Recording



Write to Speak

- ◆ Writing to Speaking (Writing followed by Speaking: Write in order to Speak)
- ◆ Right to Speak: “Everyone has the right to speak at the general meeting.”
- ◆ Writingを先ずやって、Formulatorを助ける
- ◆ IdeaのseedingでConceptualizerも助ける
- ◆ Summary Taskとして行うこともできる
- ◆ 非常に発話力の弱い人のサポートにもなる



Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. **Recording**



Recording

- ◆ LeveltモデルのMonitoringはreal-timeの並列処理で、完全なMonitoringはノンネイティブには不可能
- ◆ 自分のSpeechをRecordingし、聴解のように自らの発話を検証：一人時間差のPair Work (One-Way Presentation Task)
- ◆ DEARに載せるべきエントリーの発見
- ◆ Outputの微に入り細を穿った品質管理の唯一の方法

Speaking訓練

1. 15/45 Exercise
2. Free Translation
3. Picture Task
4. Oral Composition
5. Summary Task
6. Pair Work
7. Write to Speak
8. Recording



発音・音出しの力

単独で、又連続的に、音を生成出来るか

- 発音の問題（聴解にも影響）
- 音読・朗読が旨く出来るか
- **声に出してテキストがまともに読めない人が喋れる訳も無い**
- 作文の要素無し＝負荷小



表現・単語を増やす

- ❁ http://aoitani.net/TOEFL_Speech/README.doc を読み、**transcriptsから知らない表現等を拾う**。(下線を引く等)
- ❁ 日本の受験英語の産物である青谷正妥(あおたにまさやす)の単語や表現の使用は、同じ日本人には覚え易く使い易い。(様々な母語の話者に共通する現象:道がついている)
- ❁ **Native Speakerのspeechesは案外使い勝手が悪い**

本来はサイエンスの人間だが、
最近は英語学習のアドバイスを
求められる事の方が多い。

しかし、

本当に面倒臭い。
面倒過ぎる！



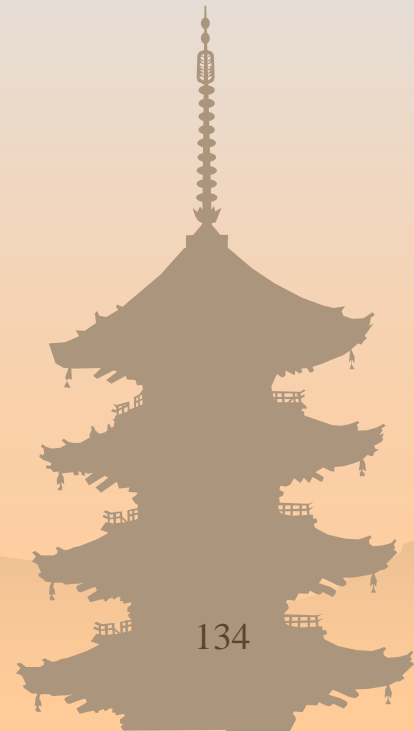
My New Book

英語勉強力

成功する超効率学習

DHC出版事業部

2005年9月刊





9784887242494



1920098018000

ISBN4-88724-249-2

C0098 ¥1800E

定価(本体0000円+税)

DHC刊



英語勉強力



英語勉強力

成功する超効率学習 | 著青谷正妥

「スケボーに金髪、でも
研究や教育は超真面目」

な京大の先生が説く、勇気とやる気を与える
英語学習のすべて!!

21世紀に必要とされる英語力を身につけるためには?

「効率的学習法のプロ」が説く「英語勉強力」養成のためのノウハウが満載!

「言語学習の4重螺旋プラス1」を用いた英語力アップの秘訣を公開!

著
青
谷
正
妥

TOEFL®テスト・TOEIC®テスト満点!
京大のレオナルド・ダ・ヴィンチ
「幸運の青い谷」が贈る
「英語に勝つ」ための
実践的な学習法!

DHC

超★理系留學術



ISBN4-7598-1042-0

C3045 ¥1800E

定価(本体1800円+税)

4045

アメリカ大学院で
成功を勝ち取る
超★理系留學術

アメリカ大学院で成功を勝ち取る

超★理系留學術

青谷 正妥 著



留学成功のための必読書!

- ◆リアルな事例や体験談からアメリカ留学のすばらしさを実感しよう
- ◆留学前・中・後の全体像をつかみ、あなたの留学青写真を描こう
- ◆合格のツボを押さえ、TOEFL・GPAなどの障壁をクリアしよう

大学に入った瞬間から準備は始まっている

青谷 正妥 著



化学同人

あの京大のスケボー先生が
とっておきのノウハウを伝授

アメリカ大学院のすべてがわかる
留学指南書の決定版

留学サクセスストーリーはここから始まる

化学同人

❁ 印税は0%

❁ 原稿買い上げではない

❁ 勿論自費出版でもない

❁ 教えを広めるための本

表紙が青い訳

青コーナー

つまり

挑戦者のコーナー



学びびても

なおお学びびても

まなびびても

学びび足らぬは

まなびびなりけり

